

令和7年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立育生小学校	校長名	山中 一宏
児童・生徒数	2 9 5 名	学級数	1 6 学級
		教職員数	4 7 名

1 学校教育目標

「 わくわくを抱こう ～ 思いを伝える、そして聴き合う ～ 」

【めざす学校の姿】

- 子どもたちが笑みをこぼすことのできる、楽しい学校
- 子どもたちが人を頼ることのできる、安心な学校
- 地域・保護者に信頼される、開かれた学校
- 職員がやりがいを感じる学校

【めざす子どもの姿】

- 学びたい・やってみたいと意欲をもつ子
- 自分を大切にし、相手を大切にできる子
- 失敗を恐れず、粘り強く取り組む子
- 地域を誇りに思う子

子どもは地域の宝物

地域は子どもの宝箱

【めざす教職員の姿】

- 子どもに向き合うことのできる教職員
- 自ら学び、仲間と学び合う教職員
- 保護者、地域とつながる教職員
- ワークライフバランスを大切にする教職員

2 重点目標

- (1) 授業改善に取り組み、学習意欲及び学力の向上を図る
- (2) 自分も仲間も大切にする教育の推進
- (3) 津市架け橋プログラムの推進
- (4) 基本的生活習慣・家庭学習習慣の確立と積極的な生徒指導の推進
- (5) 安全教育の充実と危機管理の徹底
- (6) 教職員が働きやすい環境の整備
- (7) 学校運営協議会・地域学校協働活動と連携した学校づくりの推進

3 具体的な行動計画

- ①学習規律を徹底し、学習習慣を身につけさせる。算数科では、習熟度別少人数やT・T指導を実施する。他教科でも、T・T指導を有効活用する。
- ②教員が児童一人ひとりの違いを理解し、多様な教育的ニーズに対応できるよう、指導力の向上をめざすとともに、1人1台端末を効果的に活用し、「わかる喜び、できる楽しさ」を感じられる授業づくりを進め、学習指導の充実を図る。
- ③さまざまな人権課題について正しい理解と認識を持ち、自分も仲間も大切にする人権教育・道徳教育を進める。
- ④すべての子どもに、学びや生活の基盤を育むための架け橋期カリキュラムの実践を含めた保幼小の連携を推進する。
- ⑤自己存在感や自己有用感を高め、自己決定の機会や場を設定し、自ら決めたことを行動する力を育成する。
- ⑥「育っ子憲章」を軸にして、保護者・地域と連携し、基本的生活習慣の確立を図る。また、「家庭学習のススメ」を発行し、学習習慣の確立を進める。
- ⑦不登校やいじめ等の未然防止、早期発見、初期対応に努める指導体制を強化する。
- ⑧危機管理マニュアルや地域安全マップを基にした安全対策指導や避難訓練を実施する。
- ⑨教職員の総勤務時間の縮減の取組として、会議時間は1時間以内に終了する。また、定時退校週間を設定し定時退校率80%以上、一人当たりの月平均時間外労働は30時間以下、月45時間超の時間外労働者数0人、年360時間を超える時間外勤務者数0人、一人当たりの年間休暇取得日数前年度比3日増をめざす。
- ⑩学校運営協議会・地域学校協働活動との連携により、保護者や地域住民等が学校運営や教育活動に参画する仕組みを充実させ、子どもたちの学びや体験の充実を図る。